

## 危機言語のネットワーク：タイランドにおける言語復興及び保全に関する

### マヒドル (Mahidol) モデル

スライ・プレムスリラット (マヒドル大学)

タイランドでは、70 ある言語のうち少なくとも 15 言語が、いくつかある段階のなかで存続がきわめて深刻に危ぶまれる段階に分類されている。そのほかの言語も安全ではなく衰退の兆候をみせており、その一方で国境地域（とりわけタイランドの最南部）における大言語集団は言語アイデンティティの問題や、文化葛藤や、政治不安などに直面している。

この論文では、一般には「マヒドルモデル」として知られるコミュニティを基盤にした言語復興モデルについて議論する。このモデルは、20 以上の民族言語コミュニティと、マヒドル大の言語学者や教育・植物学・公衆衛生・文化の専門家といった関連領域の協力者との 10 年間の協同作業による成果である。このモデルは、11 に分けられた活動によって構成されている。そこには、言語についての予備調査、意識改革と協力者の動員、母語の教科採用もしくは二か国語教育による母語教育、コミュニティ学習センターと地域博物館の設立、伝統的知識の学習とその復興のための取組、プロジェクトの促進・観察・評価、関係者同士のネットワークづくり、そして国による支援的な言語政策・教育政策が含まれている。各民族コミュニティに対してどのようなアプローチが選ばれるかは、そのコミュニティが置かれている固有の文脈に依存して変わってくる。しかし選ばれたアプローチは、範囲が広く、また多様でもある関係者・当事者たちから、もっとも優れた実践、経験、見解を引き出してくる。

そうしたなかで、危機言語コミュニティ内の話し手たち自身と、国際組織はもちろん民間団体や政府機関の関係者たちとのネットワークづくりに、とりわけ注目することにする。